

3. 年齢区分ごとに限度値を計算

介入線量レベル
1ミリシーベルト/年

飲料水の線量 (約0.1ミリシーベルト) を引く

一般食品に
割り当てる
線量を決定
(約0.9ミリシー
ベルト)

暫定規制値より
年齢区分を
更に細かく設定

年齢区分別の摂取量と
換算係数 (実効線量係数)
を考慮し限度値を算出

※セシウム以外の影響も考慮

年齢区分	性別	限度値(ベクレル/kg)
1歳未満	男女平均	460
1歳～6歳	男	310
	女	320
7歳～12歳	男	190
	女	210
13歳～18歳	男	120
	女	150
19歳以上	男	130
	女	160
妊婦	女	160
最小値		120

基準値
100ベクレル/kg

すべての年齢区分における限度値のうち、最も厳しい(小さい)値から基準値を設定

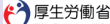
- どの年齢の方も考慮された基準値となる。
- 乳幼児にとっては、限度値と比べて大きな余裕がある。

4. 牛乳・乳児用食品の基準値について

子どもへの配慮の観点で設ける食品区分であるため、万が一、これらの食品のすべてが基準値レベルとしても影響のない値を基準値とする。

→ 一般食品の100ベクレル/kgの半分である50ベクレル/kgを基準値とする。



厚生労働省「食品中の放射性物質の対策と現状について(概要)」より作成 

基準値に対するもう一つの考え方として、年齢を考慮した区分ごとに線量の限度を割り出そうという考え方があります。

一般食品に割り当てられる許容線量は飲料水の割り当て分を引いた約0.9ミリシーベルトです。

年齢区分別に、年間の摂取量と各年齢区分に相当する実効線量係数を元に求められた値が限度値(ベクレル/kg)として表に示されています。

その結果、年齢が13～18歳までの男性が最も摂取量が多いため、限度値は最も厳しい「120ベクレル/kg」という値になりました。

基準値の設定において、この限度値がじゅうぶんに確保でき、この年齢層の人でもじゅうぶんに安全が担保されるために、更に厳しく「100ベクレル/kg」に設定されました。

本資料への収録日：2013年3月31日

関連Q&A

- ・4章 QA4 介入線量レベルを年間1ミリシーベルトに設定した理由を教えてください
- ・4章 QA7 外部被ばくと内部被ばくを合計して、介入線量レベルを年間1ミリシーベルトにするべきではないでしょうか
- ・4章 QA9 放射性セシウム以外の核種の基準値は設けないのでしょうか
- ・4章 QA16 限度値の計算で、年齢が低いほど限度値が高くなっているが、これは小児の放射線による影響を過小評価しているのではないのでしょうか
- ・4章 QA24 食品中の放射性物質の基準値は、どのように決められたのですか
- ・4章 QA25 基準値は、乳幼児や胎児への影響も考えて決められていますか